

「土木コレクション2015 in 岡山」開催報告

樋口 輝久¹

¹正会員 岡山大学大学院環境生命科学研究科 准教授（〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1）
E-mail:higuchi@cc.okayama-u.ac.jp

2015年9月、岡山市での土木学会全国大会の開催に併せ、岡山シティミュージアムにおいて「土木コレクション2015」を開催した。特に今回は、これまで全国展開してきた「HANDS+EYES」パネルに加え、「絵図・図面にみる近世・近代の岡山」と題して、江戸期から昭和初期にかけて現在の岡山県内でおこなわれた普請事業・土木事業に関わる設計図の原図やオリジナルの資料を展示した。本稿ではその準備段階から開催状況、反省点を報告する。

Key Words : obo u collection, Civil engineer's drawing exhibition, Okayama

1. はじめに

土木コレクションは、明治から昭和初期に活躍した土木技術者が残した手書きの図面を、2008年11月に土木学会AB会議室で展示したことに始まるが、2015年の岡山での全国大会は、次の100年に向けた新たな一歩となることから、土木コレクションももう一度原点に立ち返り、原図の展覧会を企画した。岡山は、江戸時代には岡山藩による大規模な新田開発や百間川の開削などの普請事業が、明治以降は児島湾干拓をはじめ、高梁川改修や東西用水の整備など近代を代表する土木事業が行われた地であり、築造当初の構造物のみならず、当時の絵図や図面、関連資料も数多く残されている。そこで、土木学会創立100周年記念事業で全国展開してきた「HANDS+EYES」に加え、原図ならではの迫力を伝えるとともに、設計図の歴史資料としての価値を示すために、下記の概要で土木コレクションを開催した。

名称：土木コレクション 2015

- ・「絵図・図面にみる近世・近代の岡山」、主催：土木の日実行委員会土木コレクション小委員会、共催：岡山市、協力：岡山大学附属図書館
- ・「HANDS+EYES」、主催：土木の日実行委員会土木コレクション小委員会、土木学会全国大会実行委員会、共催：岡山市

期間：2015年9月16日（水）～20日（日）

10:00～18:00（最終日 10:00～15:00）

会場：岡山シティミュージアム 4階企画展示室

入場料：無料

以下、準備段階から開催状況までを報告する。

2. 準備段階

(1) 会場

岡山駅西口に直結し、多くの来場者が期待でき、かつ貴重資料の展示も可能な岡山シティミュージアム（以下、岡山CM）4階企画展示室（680㎡）を会場候補とした。岡山での全国大会の開催が決定した2012年12月、岡山CMに開催の打診をし、大会日程が決定した2013年11月に、2015年9月14日（月）～23日（水・祝）の計10日間（設営14～15日）で仮予約した。途中、会場側の都合で、20日（日）まで（7日間）に短縮されたが、2014年10月に土木コレクション小委員会より正式申込をした。なお、岡山市の共催が得られ、会場費が免除された。

また、岡山CMでの開催を告知するため、おかやま観光コンベンション協会の協力を得て、8月26日（水）から9月22日（火・祝）まで岡山駅東口の地下一番街とイオンモール岡山を結ぶ地下通路にある、ももたろう観光センター前のギャラリー（以下、もも観セ前）を借用し、岡山県内の「HANDS+EYES」パネル（以下、ドボコレパネル）を展示した。

(2) 運営組織

当初よりドボコレパネルと原図の2つの企画展示をする予定であったが、全国大会実行委員会の判断により、「HANDS+EYES」のみが全国大会事業とされ、原図展は併設事業として区別された。そこで、原図展については土木コレクション小委員会が単独主催となり、予算を確保したうえで実施をしたが、逆に両委員会間の調整が不要となり、自由度の高い企画運営をすることができた。

なお、全国大会実行委員会には、樋口が土木コレクション担当委員として、土木コレクション小委員会には、岡山会場の担当として樋口と学芸員として美術館勤務の経験がある吉備国際大学・小西伸彦准教授が新たに加わった。

(3) 展示資料

ドボコレパネルは、100周年記念事業で製作した101事例135枚のうち、地域、分野のバランス、展示レイアウトを考慮し、52事例64枚を展示した（表-1）。そのうち、EYESについては新たな土木の方向性を示すため12事例すべてを展示した。また、もも観セ前には岡山県内のプロジェクト5事例8枚のHANDSを展示した（表-2）。

原図展については、現在の岡山の礎が、近世以降、脈々と行われてきた干拓事業や河川改修、さらに近代以降の上水道布設や電力開発、交通網整備等によって築かれたことが分かる図面、資料を中心に選定した（表-3）。近世のほとんどは、岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵の絵図で、吉井川と旭川を結ぶ運河を全川に渡って描いた6mを超す巻物「上道郡倉安川絵図」や鮮やかな色彩の実測図「備前国上道郡沖新田図」を目玉に、後楽園造成にあたって地面の掘り下げ量を色分けで示した「後楽園地下ケ絵図」、水門の構造を描いた「水門組立之図」など土木工事に関わる図面を選定した。近代については、「HANDS+EYES」に掲載されている事業が大半ではあるが、東西用水の取水堰を立体的に描いた「起伏堰之圖第七圖」や「高梁川實測圖」、工事用の仮設設備を朱書きした岡山市水道の「第七號 配水池平面圖（インクライン線路工事平面圖）」、奥津発電所調整池の構造計算を示した「高架部設計々算説明書」など各事業に初公開の図面を含めた。さらに旭川改修事業、霞橋など収録されていない事業も新たに加えた。

以上、近世は絵図19、資料2、写真11、近代は図面38、資料7、写真28の計105点とした。なお、図面・資料の選定、収集、所蔵先との交渉は、すべて樋口が行った。

(4) 広報

今回の土木コレクションは恒例の「HANDS+EYES」に加え、岡山に関連する原図展を実施することから、原図展「絵図・図面にみる近世・近代の岡山」をメインとしたチラシ（A4版 12,000部）、ポスター（A2版 300部）を製作した。デザインはこれまでの黒から青焼きの青を基調としたものに変更した。岡山県教育委員会、観光協会、財団等の後援を受け、表-4の通り、岡山県内の大学・高校、図書館・美術館・公民館の文化施設等に配布した。また、報道機関を通じて広くPRするため、新聞社・テレビ局に後援申請を行い、イベント情報欄への事前掲載、当日の取材と報道を依頼した。

表-1 「HANDS+EYES」展示パネル一覧
(岡山シティミュージアム)

番号	分類	H/E	No.	標 題
①	—	—	—	タイトル：土木コレクション 2015 HANDS+EYES
②	—	—	—	解説：ドボコレって、知ってますか？
③	—	—	—	プロジェクト位置図
1	農業	HANDS	20	安積疏水
2				
3				
4	運河	HANDS	54	琵琶湖疏水
5			24	横利根閘門
6			50	富岩運河 中島閘門
7	水道	HANDS	09	奥沢水源池水道施設
8			22	藤倉水源池
9				
10			23	水戸市低区配水塔
11				
12			66	松江市水道事業
13	農業	HANDS	61	布引五本松堰堤
14			72	本庄貯水池
15			43	西天竜幹線水路円筒分水群
16	河川	HANDS	74	吉野川第一期改修工事
17				
18			40	大河津分水
19	農業	HANDS	53	淀川河川改修
20				
21			77	豊稔池堰堤
22	港湾	HANDS	87	白水堰堤
23			29	大炊崎灯台
24				
25	港湾	HANDS	07	小樽港築港事業
26				
27				
28	発電	HANDS	81	三池港
29			51	三角西港
30			64	小牧ダム
31	その他(都市計画)	HANDS	63	三滝ダム
32			89	曾木発電所
33			08	札幌市都市計画
34	その他(公園)	HANDS	36	山下公園
35			33	地下鉄銀座線
36			03	宗谷線鉄道防雪林 深川林地
37	その他(鉄道)	HANDS	42	牛伏川フランス式階段工
38				
39				
40	橋梁(道路)	HANDS	25	晩翠橋
41			35	聖橋
42			39	萬代橋
43	橋梁(鉄道)	HANDS	84	西海橋
44			65	日野橋
45			75	吉野川橋
46	公園	EYES	27	碓氷第三橋梁
47			62	余部橋梁
48			5	旧土幌線コンクリートアーチ橋梁群
49	鉄道	HANDS	32	新永間市街線高架橋
50				
51			73	惣郷川橋梁
52	海岸	EYES	79	第二領地橋梁
53			01	モエリ沼公園
54			02	岩見沢複合駅舎
55	鉄道	EYES	03	木野部海岸
56			04	東京駅 丸の内駅舎保存・復原工事
57			05	富山 LRT 整備事業
58	石積	EYES	06	穴太衆石積み
59			07	安田川 馬路村農協前水制
60			08	道後温泉本館周辺広場
61	河川	EYES	09	大田川
62			10	嘉瀬川・石井樋地区歴史的水辺整備事業
63			11	松浦川・アザメの瀬地区自然再生事業
64	城郭	EYES	12	首里城

※ 番号は、図-1の展示番号と一致する。

※ No.は、「HANDS+EYES」のプロジェクト番号を示す。

表-2 「HANDS+EYES」展示パネル一覧
(ももたろう観光センター前)

番号	分野	H/E	No.	標 題
1	水道	HANDS	71	岡山市水道事業
2				
3				
4	農業	HANDS	68	児島湾干拓
5				
6				
7	河川・農業	HANDS	67	高梁川改修と東西用水西津樋門
8				
9				
10	発電	HANDS	69	恩原ダム・奥津調整池
11				
12				
13	橋梁	HANDS	70	方谷橋
14				
15				

※ No.は、「HANDS+EYES」のプロジェクト番号を示す。

表-3 「絵図・図面にみる近世・近代の岡山」 展示資料一覧

分類	事業	番号	標 題	所蔵・出典・資料番号	サイズ(縦×横)	分類	事業	番号	標 題	所蔵・出典・資料番号	サイズ(縦×横)
千島	幸島新田	1	島久新田田図	岡山大学附属図書館池田文庫 T7-109-5	96.1×82.2	水道	岡山水道	46	水道施設一覽と日誌 明治三十一年 至明治三十一年	岡山水道局所蔵	282×202(282×388)
		2	幸島新田・図	岡山大学附属図書館池田文庫 T7-102	1146×1124(688×674)			47	岡山水道水道施設平面図	岡山水道局所蔵	589×484
		3	現在の幸島西水門					48	岡山水道水道施設平面図	岡山水道局所蔵	383×389
		4	備前川上流取水門図	岡山大学附属図書館池田文庫 T7-57	1149×1420			49	岡山水道水道施設平面図	岡山水道局所蔵	310×410
		5	あけの日の橋(百間川河口水門 昭和28年9月撮影)	岡山大学附属図書館池田文庫 T7-57	279×214(479×375)			50	第二取水門工事竣工の翌日水場	岡山水道局所蔵	310×410
		6	現在の水門の旧景					51	岡山水道水道施設平面図	岡山水道局所蔵	310×410
興除新田	7-1	原島新田見取図【上図】	岡山大学附属図書館池田文庫 T8-71	1886×3118(1080×1630)	52			現在の岡山水道記念館(三軒清水場(旧)動力室ボイラー室)	岡山水道局所蔵	413×310	
	7-2	原島新田見取図【下図】	岡山大学附属図書館池田文庫 T8-71	1886×3118(1080×1630)	53			岡山水道水道施設平面図	岡山水道局所蔵	413×310	
	8	現在の水門大田門			54			第一取水門工事竣工の半田山貯水池	岡山水道局所蔵	736×1022	
	9-1	水門組立小の巻付	岡山大学附属図書館池田文庫 T7-57-1	172×177	55			現在の半田山貯水池	岡山水道局所蔵	736×1022	
	9-2	水門組立小の巻付	岡山大学附属図書館池田文庫 T7-57-6	55.3×39.8	56			第七取水門工事竣工の半田山貯水池	岡山水道局所蔵	506×623	
	9-3	水門組立小の巻付	岡山大学附属図書館池田文庫 T7-57-1	55.3×39.8	57			第七取水門工事竣工の半田山貯水池	岡山水道局所蔵	506×623	
水門の構造	9-4	水門組立小の巻付	岡山大学附属図書館池田文庫 T7-57-4	387×46.5	58			量水堰設置図	岡山水道局所蔵	31.1×54.7	
	9-5	水門組立小の巻付	岡山大学附属図書館池田文庫 T7-57-5	41.2×69.3	59			現在の半田山貯水池(旧)量水堰	岡山水道局所蔵	31.1×54.7	
	10	奥上流部(上)部構造図	岡山大学附属図書館池田文庫 T7-49-1	79.7×108.5	60			岡山水道旭川水管橋設置図	岡山水道局所蔵	305×639	
	11	上流部(下)部構造図	岡山大学附属図書館池田文庫 T7-40	60.4×68.3	61			岡山水道旭川水管橋設置図	岡山水道局所蔵	305×639	
	12	現在の吉井水門			62			現在の京橋水管橋	岡山水道局所蔵	103.2×46.6	
	13	旭川東部図	岡山大学附属図書館池田文庫 T2-57	78.4×88.2	63			旭川東部図	岡山水道局所蔵	222×151(222×27.8)	
河川 運河	百間川	14	百間川一荒手見取図 百間川二荒手見取図	旭川改修と古人の偉業	184×246	64	旭川改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	内務省大蔵省土木研究所	222×151(222×27.8)		
		15	現在の一荒手の上流部図			65	旭川改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	岡山水道局所蔵	36.6×51.2		
		16	現在の一荒手の下流部図			66	旭川改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	岡山水道局所蔵	91.1×143		
		17	後楽園地下線図			67	東西用水平面図	高梁川(東西用水組合)所蔵	77.8×149.9		
		18	後楽園図			68	旭川改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	高梁川(東西用水組合)所蔵	62.7×97.1		
		19	備前川(旭川)後楽園風景図			69	旭川改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	高梁川(東西用水組合)所蔵	63.1×92.8		
後楽園	現在の後楽園	20	現在の後楽園			70	工事途中の旭川取水門	高梁川(東西用水組合)所蔵			
		21	現在の後楽園の井田			71	現在の旭川取水門	高梁川(東西用水組合)所蔵			
		22	備前川(旭川)後楽園風景図			72	旭川取水門	高梁川(東西用水組合)所蔵	39.9×76.9		
		23	後楽園地下線図			73	旭川取水門	高梁川(東西用水組合)所蔵	63.6×82.0		
		24	後楽園地下線図			74	旭川取水門	高梁川(東西用水組合)所蔵			
		25	現在の後楽園の井田			75	現在の旭川取水門	高梁川(東西用水組合)所蔵			
牛久保	大多府	26	大多府図			76	新築大多府図 附 大多府水質地帯図	岡山水道局所蔵	48.2×72.6		
		27	現在の大多府の元禄地帯図			77	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	岡山水道局所蔵	78.7×106.8(78.7×27.9)		
		28	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			78	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	岡山水道局所蔵	27.5×19.7(27.5×35.2)		
		29	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			79	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	岡山水道局所蔵	27.8×40.4		
		30	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			80	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	岡山水道局所蔵	28.1×39.2		
		31	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			81	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	岡山水道局所蔵	28.7×21.0(4枚)		
千島 見島新田	見島新田	32	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			82	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	28.7×21.0(4枚)		
		33	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			83	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	78.7×106.8(78.7×140.0)		
		34	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			84	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	66.5×131.0		
		35	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			85	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	67.7×148.7		
		36	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			86	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.7×106.8		
		37	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			87	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.1×105.3		
千島 見島新田	見島新田	38	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			88	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.3×105.8		
		39	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			89	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.7×106.8		
		40	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			90	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.1×105.3		
		41	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			91	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.3×105.8		
		42	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			92	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.7×106.8		
		43	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			93	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.1×105.3		
千島 見島新田	見島新田	44	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			94	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.3×105.8		
		45	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			95	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.7×106.8		
		46	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			96	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.1×105.3		
		47	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			97	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.3×105.8		
		48	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			98	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.7×106.8		
		49	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			99	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.1×105.3		
千島 見島新田	見島新田	50	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			100	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.3×105.8		
		51	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			101	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.7×106.8		
		52	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			102	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.1×105.3		
		53	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			103	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.3×105.8		
		54	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			104	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.7×106.8		
		55	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事			105	旭川(旭川)改修工事概要 附 旭川(東西用水組合)工事	中国電力所蔵	76.1×105.3		

※ 番号は、図-1の展示番号と一致する。
※ 欄頭の【】は、区別するために便宜上、表記したものである。
※ サイズ(縦×横)は、展示時のサイズを示す。
※ 現在の各標本の写真、写真は、著作権が保護された。

※ 番号は、図-1の展示番号と一致する。
※ 標題の「旭川」は、区別するために便宜上、表記したものである。
※ サイの()は、展示時のサイズを示す。
※ 現在の各構造物の写真は、著者が撮影した。

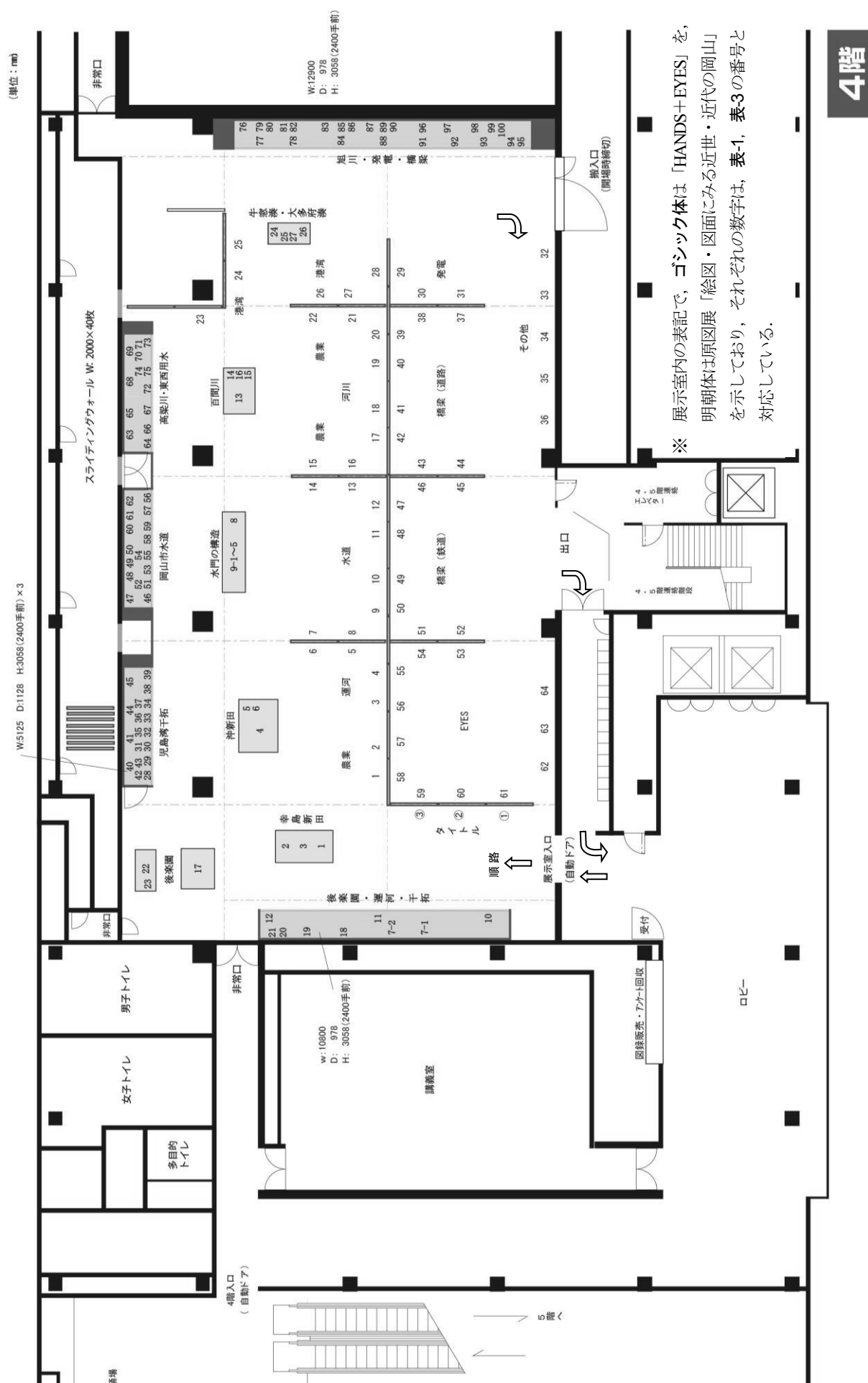


表4 チラシ・ポスターの配布先および枚数

配布先	チラシ	ポスター
土木学会(本部、各支部等)	887	39
岡山シティミュージアム(事前、当日)	1,000	10
財団・研究会等(5)	3,593	4
文化施設(美術館 32, 図書館等 76, 公民館等 70)	3,500	183
行政機関(5)	350	18
資料提供先等(8)	255	13
学校(高校 54, 大学 18)	1,135	29
PR(後援団体 13, 他 10)	758	4
その他(関係者等 17)	82	0
合計	11,560	300

※ () 内の数字は、箇所数を示している。



写真-1 ももたろう観光センター前での展示

3. 開催記録

(1) 設営

設営期間が2日間、撤去が6時間と限られていたため、原図とドボコレパネルの搬出入ならびに展示作業の錯綜を考慮し、日本通運1社にすべての業務を依頼した。

近代の原図は、8月上旬から1ヶ月間に各所蔵先で樋口が状態を確認し借用した。近世の絵図は、8月17日に岡山大学附属図書館で小西委員と樋口が状態を確認し、9月11日に美術品専用車で、ドボコレパネルは9月12日に千葉の倉庫から岡山に向けて搬送した。

展示レイアウトは図-1の通りである。順路の右手に「HANDS+EYES」、左手に原図を配置し、近世と近代が対面する箇所、カーテンウォールで囲まれたエリアは、同じ分野になるように配慮し、EYESは最後にまとめた。原図はすべてガラスケース内に、ドボコレパネルはカーテンウォールや壁面にワイヤーで吊り下げて展示した。

(2) 開催状況

会期5日間の入場者数は表-5の通りで、計758名、1日平均152名であった。表-7の項目で入場者にアンケートを実施し、約75%を回収した(回答者には100周年記念の土木コレクション特製クリアファイルを贈呈した)。学会期間中は会員の割合が45%程度、逆に土日は数%であった。居住地は岡山市内が平均で43%、学会期間中は県外が50%代後半、土日も大型連休中(5連休)であったこともあり、県外からの来場者が一定数あった。なお、県外は東京都がトップで18%であった(表-6)。

表-5 入場者数と属性

開催日	16日(水)	17日(木)	18日(金)	19日(土)	20日(日)	合計	
入場者数	133	207	142	168	108	758	
アンケート回答数	97 (72.9)	155 (74.9)	111 (78.2)	138 (82.1)	64 (59.3)	565 (74.5)	
土木学会会員	44 (45.4)	75 (48.4)	52 (46.8)	10 (7.2)	2 (3.1)	183 (32.4)	
居住地	岡山市内	31 (32.0)	55 (35.5)	36 (32.4)	93 (67.4)	29 (45.3)	244 (43.2)
	岡山県内	13 (13.4)	10 (6.5)	10 (9.0)	30 (21.7)	19 (29.7)	82 (14.5)
	岡山県外	53 (54.6)	90 (58.1)	65 (58.6)	15 (10.9)	16 (25.0)	239 (42.3)

※ () 内は、割合(%)。岡山県内は、岡山市内を除く。



写真-2 岡山シティミュージアムでの展示

(3) 経費

今回の土木コレクションの開催に要した経費は、表-8,9の通りである。土木コレクション小委員会からの費用負担が必要となったため、両備櫻園記念財団、福武教育文化振興財団より助成を受け、負担の軽減に努めた。この他に当日の学生アルバイト代が25万円程度かかっており、合計の経費は約280万円であった。

(4) 図録

100周年記念事業で出版した『HANDS+EYES』を会場にて販売し、準備した120部を完売した。また、原図展については予算と出版手続きの関係で、学会出版物としてではなく、任意の図録編集委員会を立ち上げ、著者の責任で図録(A4版、32ページ、カラー)を制作、販売した。経費は両備櫻園記念財団と個人の寄付によって賄い、500部制作して、会場にて142部を販売し、図面の

表-6 岡山県外者の居住地

都道府県	人数 (%)	茨城	11 (4.6)	京都	6 (2.5)
東京	43 (18.0)	愛知	9 (3.8)	兵庫	6 (2.5)
埼玉	16 (6.7)	宮城	8 (3.3)	高知	4 (1.7)
広島	15 (6.3)	新潟	8 (3.3)	鳥取	3 (1.3)
千葉	14 (5.9)	香川	8 (3.3)	岐阜他	5 (2.0)
神奈川	13 (5.4)	北海道	7 (2.9)	沖縄他	11 (0.4)
大阪	13 (5.4)	福岡	7 (2.9)	無記入	27 (11.3)

表-8 「HANDS+EYES」(岡山
シテミュージアム)の経費

予算	
全国大会実行委員会	1,425,916
支出	
運送料・設営費	1,020,492
パネル製作費等	178,200
備品消耗品	157,248
旅費交通費	16,280
飲食代	10,353
合計	1,382,573

+ 43,343

表-9 原図展+「HANDS+EYES」
(もも観セ前)の経費

予算	
土木コレクション小委員会	1,000,000
福武教育文化振興財団	150,000
両備櫻園記念財団	200,000
合計	1,350,000
支出	
運送料・設営費等	507,552
デザイン料	205,200
印刷代	162,000
賃借料	600
発送・通信費	83,526
備品消耗品費	4,330
旅費交通費	8,200
飲食代	5,872
手数料	540
作業費	43,044
資料購入費	15,500
印刷代	12,587
発送・通信費	20,734
複写費	12,025
備品消耗品費	48,150
旅費交通費	37,960
諸経費	10,000
合計	1,177,820

+ 172,180

ト結果(表-10)からチラシ・ポスターが多く、特に岡山駅の東西連絡通路の効果が大きいことが分かった。また、もも観セ前の展示も一定の効果があり、その場の展示だけでも土木コレクションを知ってもらえたものと思われる。一方、岡山に関する展覧会であるにも関わらず、報道機関の取材は新聞、テレビとも各1社で集客にはつながらなかった。さらに原図展のチラシを全国大会の会場で配布できなかったのは残念であった。なお、他学会の帰りや連休の旅行中に「たまたま」という人もいた。

展示については、原図展のキャプションはタイトルと所蔵先のみとし、できるだけ文字情報を減らして、繊細で迫力のある手書きの図面そのものをしっかり見てもらいたかったが、「詳しい解説が欲しい」という要望が寄せられた。こちらの意図が理解されず残念であった。

印象に残った資料は、ドボコレパネルでは余部橋梁、西海橋、小樽築港、鉄道防雪林などが上位に、EYESは全般に好評で、中でもモエレ沼公園に人気が集まった。

表-7 アンケート内容

質問項目
① 土木学会会員ですか？
② 年代を教えてください。 中学生以下、高校生、大学生、20～30代、40～50代、60歳以上
③ どこから来られましたか？ 岡山市内、岡山県内、岡山県外(都道府県名)
④ この展覧会の開催を何でお知りになりましたか？ チラシ、ポスター、ホームページ、新聞、テレビ、岡山市広報誌、雑誌・会報誌、ももたろう観光センター前の展示、知人・家族など、その他
⑤ 印象に残った資料を教えてください。
⑥ 展示についての感想を教えてください。
⑦ 「土木」に対するイメージを教えてください。

表-10 土木コレクションの開催を知った媒体

媒体	人数 (%)	場所等の具体名
チラシ	135 (23.1)	美術館等 12, 図書館 9, 土木学会 9, 学校 8, 県庁・市役所 7, 財団等 5
ポスター	85 (14.6)	岡山駅 37, 美術館 11, 学校 4, 水道局, 観光案内所
HP	62 (10.6)	土木学会 38, facebook 6, 県庁, 国土交通省, 建築士会
新聞	15 (2.6)	山陽新聞 8, 産経新聞 2, 読売新聞
テレビ	11 (1.9)	NHK3, 山陽放送 2
広報誌・会誌	28 (4.8)	土木学会誌 17, 岡山市広報誌 8
もも観セ前	41 (7.0)	
知人・家族	72 (12.3)	
その他	135 (23.1)	全国大会 41, 校外学習 32, 通りがゆめ 23, 近代化遺産講義 8
合計	584	

所蔵先等関係者に48部、岡山県内を中心とした公立図書館等に93部、大学・高校の図書館に89部を寄贈した。

4. 反省点・感想

展覧会を知ったきっかけとして、アンケート

原図展では、近世は沖新田、倉安川、近代では東西用水の樋門、恩原ダム、霞橋が印象に残ったようである。

紙面の都合で1人分だけ展示の感想と「土木」に対するイメージのアンケート回答を紹介する(非会員、岡山市内、60歳以上)。「全体に素晴らしい資料展示で全てに感動しました。設計のち密さに驚きました。やはりプロの世界ですね。(中略)自然災害が多い我が国の国土強じん化に、大いにcontributeすると思いました。1人の技師の力、発想力、デザイン力が素晴らしい。人間の力のすごさを感じました。「土木」を見直すよい機会になりました。できれば1つずつ訪ねてみたいと思いました。」企画した者にとって、非常にうれしい言葉である。

5. おわりに

組織や予算、会場との調整において、非常に多くの困難を伴ったが、土木コレクション小委員会委員長の九州大学・島谷幸宏先生をはじめ、各委員会のメンバー、土木学会事務局の力強い協力により土木コレクションを岡山で開催することができた。岡山大学附属図書館ならびに関係機関には貴重な資料を快く貸して頂いた。また、吉備国際大学・小西伸彦先生には、展示・図録作成について多くをご教授頂いた。その他、ここには書ききれない多くの方々、団体の協力により開催できたことを感謝する次第である。

先人達の残した図面が、多くの人々に感動を与え、土木のすばらしさ、大切さを再認識する良い機会をもたらした。今後、我々が進むべき道を示してくれたように思う。

(2016. 4. 11 受付)